

# 特定非営利活動法人まちの食農教育

徳島県

活動期間：8年

## 子どもたちへの食農教育を推進するための「学校食」プログラム

### 合言葉は「すべてのこどもに農体験を」

「農業の担い手を育成する」を目的に掲げたフードハブ・プロジェクト食育部門を前身として、2022年にNPO法人まちの食農教育を設立しました。子どもたちにとって「小さな社会」である学校で継続的に食農教育に取り組むことは、学校と地域をつなぎ、地域の農業や食文化を守り伝え、地域の担い手を育てるために重要な活動です。私たちは、給食や各教科での学びと連動する食農プログラムを設計し、年間を通じて「そだてる、あじわう、つなぐ」という体験活動に取り組んでいます。この取組によって、農作物を育て、収穫し、味わう楽しさを子どもたちが実感し、食や農業への関心を深めるとともに、地域とのつながりを強化しています。活動を通じて、一次産業の重要性を広く理解してもらうとともに、未来を担う人材を育て、地域の持続可能な発展を目指しています。



2校合同で実施している在来のもち米栽培

### 「いのち」に触れる機会と「食べ物に関わる人や仕事」に出会う場をつくる

世界中で起こるさまざまなニュースや出来事は、私たちの日常と切り離されたものではありません。それらは私たちが暮らすこの社会と深く結びついています。特に「いのち」に触れること、そしてそれを感じることができる場をつくることは、私たちの生活の中で非常に大切です。食べ物の「たね」を未来へとつなげていくことも、その一部です。この「たね」からは、命を育む力が生まれ、食がどのようにして私たちに届くのかを理解することができます。生産者やつくり手との出会いを通じて、その背後にある想いや努力を感じ、食の循環や環境とのつながりを知ることが、私たちの世界への興味や関心を広げるきっかけとなります。これらすべては、実は畑という身近な場所から始めることができる第一歩です。畑での体験を通じて、私たちは命の大切さを実感し、次の世代へとその価値を引き継いでいくことができると考えています。



小学校3年生が栽培する大豆は在来大豆



地域の農家や、作り手さんからの学び



田畑は生き物にも出会う場所

### 地域の大人とともに描く、農と食の未来

農業従事者の高齢化、耕作放棄地の増加、自給率の低迷や安全性の問題など、農業と食を取り巻く課題は山積しています。これらの明確な解決策が見えない中で、地域の人々と対話を重ね、地域の食の未来について考え続ける場や機会の必要性を強く感じています。2023年に神山町内で開催した「School Food Forum」では、「地域でつなぐ農と食」をテーマに掲げ、全国から関心を持つ方々が集まり、食に関する教育について意見を交わし、学び合いました。今後も町内で、食を中心に据えた継続的な対話の場をつくっていきたいと考えています。



School Food Forum2023より



まちの食農教育  
Community Supported School Lunch

この度は、誠にありがとうございます。食農教育を受けた中学生が、「これまで見ていたまちの風景の見え方が変わった」と話してくれました。体験を通じて意識が変わっていくことを、彼女たちが教えてくれたのです。「そだてる、あじわう、つなぐ」という活動を経験する町内の子どもたちが年々増えていくことが、私たちの大きな希望です。

NPO法人まちの食農教育 一同